

各 位

会 社 名 株式会社スーパー大栄
 代 表 者 名 代表取締役社長 中山 勝彦
 コード番号 9819 (福証)
 問 合 せ 先 取締役管理本部経理部長 阪本 博美
 T E L (093) 602 - 2770

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績の動向等を踏まえ、平成 18 年 5 月 26 日の決算発表時に公表した業績予想を下記のとおり修正いたします。

記

1. 平成 19 年 3 月中間期業績予想数値の修正(平成 18 年 4 月 1 日～平成 18 年 9 月 30 日)

(単位:百万円、%、百万円未満切り捨て)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 18 年 5 月 26 日発表)	14,700	25	50
今 回 修 正 予 想 (B)	14,631	123	208
増 減 額 (B - A)	68	148	258
増 減 率 (%)	0.5	593.4	517.4
前 期 実 績 (平 成 18 年 3 月 中 間 期)	14,581	25	1,562

2. 平成 19 年 3 月通期業績予想数値の修正(平成 18 年 4 月 1 日～平成 19 年 3 月 31 日)

(単位:百万円、%、百万円未満切り捨て)

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益
前 回 発 表 予 想 (A) (平成 18 年 5 月 26 日発表)	29,530	50	60
今 回 修 正 予 想 (B)	29,000	170	210
増 減 額 (B - A)	530	220	270
増 減 率 (%)	1.8	440.0	450.0
前 期 実 績 (平 成 18 年 3 月 期)	28,823	22	1,607

3. 修正の理由

当中間会計期間におけるわが国経済は、原油価格の高騰や米国経済の減速等の不安定要因はありましたが、企業収益の改善に伴う民間設備投資の拡大や雇用情勢の回復等、総じて堅調に推移してまいりました。

しかしながら、小売業界におきましては同業他社との競争に加え、低価格戦略が定着化しているドラッグストアや、生鮮食品を強化してきた大型スーパーセンターとの激しい競争もあり、業界を取り巻く環境は、以前にも増して厳しい状況が続いております。

当社におきましては、生鮮三品の売上高が好調に推移したため、当中間期の売上高は前年同期比微増となったものの、一般食品で、競合スーパーとの価格競争が響き、予定通りの売上高及び売上総利益率が確保出来ませんでした。

これらの結果、当中間期の売上高は 14,631 百万円 (前年同期比 0.3%増)、経常損益は 123 百万円の経常損失 (前年同期は経常利益 25 百万円)、又、中間純損失は 208 百万円 (前年同期は中間純損失 1,562 百万円) となりました。

平成 19 年 3 月期通期の業績につきましては、依然として厳しい市場環境が続くものと予想されることから併せて今回修正するものです。

なお、今年度予想が当初の計画を大幅に下回っている状況を踏まえ、現在、業容拡大と収益力強化を目的として、積極的な新規出店計画と不採算店舗の見直しに着手しております。

(注)上記の予想は、本資料の発表日現在において入手可能な情報に基づき作成したものであり、実際の業績は、今後の様々な要因により上記予想数値とは異なる結果となる場合があります。

以 上